科目名	地域・在宅看護論 I	対象学生・時期	1年生・後期	
	(暮らしを支える看護)	講義時間(単位)	15時間(1)	
講師名	①外部講師			
科目目標	1. 個人・家族を支える環境としての地域を理解する 2. 個人・家族の暮らしを理解する 3. 自らの健康を維持できるよう継続的に暮らしを支える看護を理解する			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	個人・家族を支える環境としての地域の理解	1. 地域で生活する人々の理解 1) 個人の生活構造と地域特性 2) 健康支援活動 ヘルスプロモーション プライマリヘルスケア 3) 拠点となる地域の地域特性、健康支援活動の実際 (1) 地域の概要 (人口、家族形態・世帯構造、産業) (2) 生活環境 (地理的条件、交通、流通、住環境、大気汚染・騒音、治安) (3) 健康支援活動 (自治会等の地区組織活動、ボランティア・NPO活動、保健・医療・介護・福祉サービスとの連携)	講義	①
2		4) 拠点となる地域に暮らす世帯構造に合わせた生活の理解	グループワーク	
3		5) 拠点となる地域の実際 I (地域アセスメント) (1) フィールドワーク (2) 発表準備	演習 グループワーク	
4		(3) 発表	発表	
		2. 看護が提供される多様な場の理解	講義	

5	地域・個人および家族の暮らしの理解	1. 地域の生活環境が健康に与える影響 1) 文化的環境 2) 社会的環境 3) 自然環境 2. 家族の役割 1) 家族のとらえ方 2) 家族の機能と役割 3. 地域・在宅看護の対象 1) 個人・家族、集団、組織、地域 2) 健康状態（健康な状態～終末期） 3) 発達段階（胎児期～老年期）		
6	自ら健康を維持できるように継続的に暮らしを支える看護の理解	1. 健康と暮らしを支える看護 1) 地域包括ケアシステム 2) 多職種連携、協働の意義 3) 地域包括ケアシステムにおける看護の役割		
7				
8	単位認定試験（45分）			
評価方法	筆記試験 レポート			
使用テキスト	・地域・在宅看護論1 地域療養を支えるケア メディカ出版 ・基礎からわかる地域・在宅看護論 照林社			
備考				

☆：実務経験のある教官等による授業科目の授業計画書（シラバス）

科目名	地域・在宅看護論Ⅱ (在宅療養を支える看護)		対象学生・時期	2年生・前期	
			講義時間(単位)	15時間(1)	
講師名	①教官☆				
科目目標	1. 地域における在宅看護を理解する 2. 在宅看護における看護の機能と役割を理解する				
回数	主題	主な学習内容		授業形態	担当
1	地域における在宅看護	1. 地域・在宅看護の背景 1) 社会的背景と国民の価値観の変容 2) 日本の地域・在宅看護の変遷と今後の課題 2. 地域・在宅看護の基盤 1) 在宅ケアの目的 2) 在宅におけるチームケアの意義 3) 在宅看護と訪問看護		講義	①
2	在宅看護における 看護師の役割	1. 地域療養を支える在宅看護師の役割と機能 1) 自立・自律支援 2) 病状・病態の予測と予防 3) セルフケア理論 4) アドボカシー			
3		2. 在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件 1) 療養者・家族側の条件 2) サービス提供者側の条件			
4	在宅における家族看護	1. 家族の理解 1) 家族システム理論 2) 家族発達理論 3) 家族ストレス対処理論			
5		2. 家族介護者の現状と課題 1) 在宅看護の対象者としての家族 2) 家族アセスメント 3) 家族への支援 (1) 介護方法の指導 (2) 家族の健康支援			
6	地域療養を支える制度	1. 社会資源の活用 2. 医療保険制度 3. 後期高齢者医療制度			

		4. 介護保険制度 5. 障害者に関する法律		
7	在宅看護のしくみ	1. 訪問看護の特徴 2. 在宅ケアを支える訪問看護ステーション 1) 訪問看護ステーションの開設基準 2) 訪問看護サービス開始までの流れ 3) 訪問看護サービスの質保証 4) 訪問看護サービスの管理・運営 3. 訪問看護制度の課題		
8	単位認定試験 (45分)			
評価方法	筆記試験			
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域・在宅看護論 1 地域療養を支えるケア メディカ出版 ・ 基礎からわかる地域・在宅看護論 照林社 			
備考				

科目名	地域・在宅看護援助技術	対象学生・時期	2年生・前期	
		講義時間（単位）	15時間（1）	
講師名	①外部講師			
科目目標	1. 在宅看護活動を支えるコミュニケーション技術を習得する 2. 在宅看護に共通する技術を習得する 3. 在宅における医療管理を必要とする対象の看護について理解する			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	在宅療養を支える コミュニケーション	1. 療養者・家族とのコミュニケーション 2. 組織内のコミュニケーション 3. 多職種チームのコミュニケーション 4. コミュニケーション障害と支援	講義 演習	①
2	日常生活を支える 看護技術	1. ヘルスアセスメント 2. 環境整備 3. 感染予防 4. 排泄ケア		
3		5. 在宅療養を支える健康危機・災害対策 6. 生活リハビリテーション		
4	在宅における医療管理 を必要とする対象の 看護	1. 薬の自己管理 2. 疼痛管理 3. 在宅経管栄養法（HEN） 4. 在宅中心静脈栄養法（HPN）		
5		5. 褥瘡管理（予防とケア） 6. ストーマ管理 7. 在宅CAPD管理（在宅腹膜透析）		
6		8. 在宅酸素療法（HOT） 9. 在宅人工呼吸療法（HMV） 10. 非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）		
7		11. 吸引・吸入 12. 気管切開部位の管理		
8	単位認定試験（45分）			
評価方法	筆記試験			
使用テキスト	・地域・在宅看護論2 在宅療養を支える技術 ・基礎からわかる地域・在宅看護論		メディカ出版 照林社	
備考				

科目名	地域・在宅で療養する対象の看護 (在宅の主な対象の看護)	対象学生・時期	2年生・前期	
		講義時間(単位)	15時間(1)	
講師名	①外部講師			
科目目標	1. 在宅で療養する対象への看護の展開方法の特徴を理解する 2. 療養の場の移行に伴う看護を理解する 3. 在宅で療養する対象の状況に合わせた看護を理解する			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	療養の場の移行	1. 在宅療養者を取り巻く環境 1) 地域社会の中で暮らす 2) 健康レベルに合わせて療養環境を整える	講義	①
2	在宅で療養する対象への看護の展開方法の特徴	1. 在宅を支える訪問看護ステーション 1) 訪問看護サービスの提供 2) 訪問看護サービスまでの流れ 3) 利用料 2. 訪問看護サービスの展開 1) 訪問看護サービスにおける看護過程の特徴 2) 訪問看護過程の実際 (1) 情報収集 (2) アセスメント (3) 計画立案 (4) 実施 (5) 評価 3. 家庭訪問・初回訪問 4. 訪問看護の記録		
3	在宅で療養する対象への看護	1. ケアマネジメントの概念 2. 家族看護 1) 生活ニーズ(家族の危機と再構成) 2) 家族システムと家族看護 3. 地域での支援 1) 社会資源 2) 意思決定支援 3) サービスの導入と調整 (人権保障、チームケア、連携)		
4	在宅療養者の状態に応じた看護	1. 精神障害で療養する対象者 1) 対象となる人の理解 2) 看護の実践 3) 看護の評価 2. 認知症の療養者に対する在宅看護		

		<ul style="list-style-type: none"> 1) 認知症の療養生活 2) 家族看護 3) せん妄の看護 自尊感情へのアプローチ 		
5		<ul style="list-style-type: none"> 3. 慢性疾患の療養者に対する在宅看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) パーキンソン病の症状とケア 2) 在宅ケアの連携について 3) 在宅・病院・施設の選択 4) パーキンソン病患者のQOL 4. 神経難病の療養者に対する在宅看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 難病の在宅看護 2) 心理的ケア・アセスメント 3) 事例に沿った在宅看護 4) 看護小規模多機能型サービス 		
6		<ul style="list-style-type: none"> 5. 終末期の看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 疼痛コントロール 2) 看取りにおける看護師の役割 3) 在宅ケアチーム、チーム医療 6. 在宅で療養する小児と家族に対する在宅看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 療養者についての情報 2) 退院時のカンファレンス 3) 日常の看護の実際 きょうだい児への支援 		
7		7. 療養生活の中で起こる問題と対策		
8	単位認定試験 (45分)			
評価方法	筆記試験			
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎からわかる地域・在宅看護論 ・ 地域・在宅看護論 1 地域療養を支えるケア 		照林社 メディカ出版	
備考				

科目名	地域・在宅看護論演習		対象学生・時期	2年生・後期	
			講義時間（単位）	30時間（1）	
講師名	①外部講師				
科目目標	1. 在宅の対象者への日常生活援助と対象の機能の維持・向上に向けた支援を理解する 2. 在宅看護の展開方法を習得する 1) 在宅における生活支援の方法を理解する 2) 在宅における医療管理を必要とする対象の看護を理解する				
回数	主題	主な学習内容		授業形態	担当
1	地域・在宅で療養生活を送るALS患者の看護過程の展開	1. 在宅看護における看護目標 (内容、方法) 2. ALSの対象の事例(在宅療養までの経過)		講義	①
2		3. 在宅で療養する対象の看護の特徴 4. 事例(ALS)の病態生理		講義	
3		5. 情報の整理と分析 1) フェイスシート 2) ゴードンの11の機能的健康 パターンのアセスメント		個人 ワーク	
4		6. ゴードンの11の機能的健康パターン のアセスメントを通じた在宅看護の特 徴		講義	
5		7. 情報の整理と分析 ・フェイスシート、アセスメント用紙の 個人ワークをグループワーク発表へ向 けて準備		グループ ワーク	
6		1) 関連図 2) 問題リスト			
7		8. 問題リストの検討 ・グループワーク・発表・意見交換 ・問題リストの表現の整理 ・フェイスシートコメント ・目標設定・問題を発表		グループ ワーク	
8		9. 看護計画立案 ・問題リストから看護計画		グループ ワーク	
9		10. 問題リスト～看護計画の発表 11. まとめ		全体討議 講義	
10		地域・在宅で療養生活を送る大腸がん終末期患者の看護過程の展開	1. 大腸がんの対象の事例 2. 大腸がんの病態生理 3. 終末期の看護の方向性		

11		4. 4つの視点による情報整理 1) 身体的側面 2) 心理的側面 3) 環境・生活の側面 4) 家族・介護状況の側面	個人 ワーク
12		5. 情報整理～4つの視点でアセスメント 1) 対象に何が必要か 2) どのようなケアが必要か ⇒ 看護の視点	講義
13		6. 24時間、1週間、1か月のプランの 立案 1) 訪問看護導入のプロセス、看護計画	個人 ワーク
14		7. 24時間、1週間、1ヶ月のプランの 立案	グループ ワーク
15		8. グループワーク発表	全体討議
評価方法	課題		
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・地域・在宅看護論1 地域療養を支えるケア メディカ出版 ・地域・在宅看護論2 在宅療養を支える技術 メディカ出版 ・基礎からわかる 地域・在宅看護論 照林社 ・看護診断ハンドブック 第12版 医学書院 ・看護過程の解体新書 学研 ・疾患と看護 3 消化器 メディカ出版 ・疾患と看護 5 脳・神経 メディカ出版 ・根拠がわかる症状別看護過程 南江堂 ・系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院 		
備考			

実習科目	在宅看護論実習	対象学生・時期	2年生・前期
		講義時間(単位)	90時間(2)
実習目的	在宅療養している対象と家族、介護者の特徴を理解し、健康レベルに応じたQOLを維持するための看護が実践できる。		
実習目標および内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養している対象と家族の日常生活の状況が理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の発達段階・健康レベルや障害の程度が述べられる。 2) 対象の在宅療養の状況が述べられる。 3) 対象の日常生活と持てる力が述べられる。 2. 在宅療養している対象と家族の健康問題を理解し、解決に向けた援助が理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象と家族の健康問題・生活状態に適した看護について述べられる。 2) 安全・安楽を考慮した日常生活援助が述べられる。 3) 生活を維持していく為に必要な生活指導、健康管理指導の必要性がわかる。 3. 生活している人々の健康増進・疾病予防に関する看護活動について理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の生活のペースに合わせた援助技術の工夫がわかる。 2) 家族の介護状況に合わせた援助が述べられる。 3) 対象の疾病や障害に対する心理的状況への支援がわかる。 4. 在宅療養している対象と家族を支える社会資源・関係機関・多職種との連携が理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象に活用されている社会資源について述べられる。 2) 地域包括支援センターの機能について説明できる。 3) 地域包括支援センターと病院との連携について説明できる。 4) 在宅療養している対象の外来での継続支援の方法について説明できる。 5) 退院調整の必要性について述べられる。 6) 退院支援のプロセスと連携方法について述べられる。 5. 看護者としての自覚を持ち、行動できる <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護者としてマナーをわきまえた行動がとれる。 2) 問題意識を持ち、意欲的に学習に取り組む姿勢がみられる。 3) 学生として責任ある行動がとれる。 			
評価方法	評価表による評価		